

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第74期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 仙波糖化工業株式会社

【英訳名】 Semba Tohka Industries Co.,Ltd

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小林 光夫

【本店の所在の場所】 栃木県真岡市並木町2丁目1番地10

【電話番号】 0285-82-2171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 芝山 哲

【最寄りの連絡場所】 栃木県真岡市並木町2丁目1番地10

【電話番号】 0285-82-2171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 芝山 哲

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期 連結累計期間	第74期 第2四半期 連結累計期間	第73期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	10,163,171	9,571,207	20,742,514
経常利益 (千円)	474,386	387,005	996,259
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	301,510	154,936	579,234
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	319,153	247,208	1,522,785
純資産額 (千円)	9,269,369	10,539,053	10,462,312
総資産額 (千円)	21,552,327	21,482,694	21,430,132
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	26.49	13.61	50.88
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	42.4	45.2	44.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	345,883	406,185	1,669,386
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	237,136	832,278	919,494
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	40,991	92,320	134,735
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,194,974	3,381,897	3,742,161

回次	第73期 第2四半期 連結会計期間	第74期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	15.54	9.39

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
 2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による事業への影響については、引き続き今後の状況を注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、緩やかな回復基調にあった経済環境が急速に悪化し、先行きも極めて不透明の状況が続いております。

食品業界におきましては、外出自粛や事業活動の制限などにより、内食需要が増加する一方で、外食チェーンやコンビニエンスストアへの来店客数の大幅な減少に伴う外食需要低迷など、需要構造の大きな変化への対応を急速に迫られ、経営環境の厳しさが増しております。

このような状況下、当社グループは、顧客への納品対応を第一に、自社商材の拡販や海外市場取り込みに向けた様々な取り組みを強化いたしました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は95億71百万円（前年同四半期比5.8%減）となりました。

製品の種別別売上高では、カaramel製品は、天候不順の影響で飲料向けなどが減少し、18億26百万円（前年同四半期比3.2%減）となりました。乾燥製品類は、巣ごもり需要で凍結乾燥製品や粉末調味料の販売は増加したものの、在宅勤務拡大に伴うオフィス向け粉末茶需要減少が大きく、28億41百万円（前年同四半期比3.7%減）となりました。組立製品類は、事業活動自粛要請に伴うヘルスケア関連製品の受注が減少し、24億5百万円（前年同四半期比11.4%減）となりました。冷凍製品は、外食向け冷凍山芋等が減少し、18億53百万円（前年同四半期比5.6%減）となりました。その他は、子会社の受託加工がやや減少し、6億43百万円（前年同四半期比0.4%減）となりました。

利益面につきましては、販管費の削減を強化させたものの、減収要因をカバーできず、営業利益は4億63百万円（前年同四半期比4.3%減）、経常利益は3億87百万円（前年同四半期比18.4%減）、当社の海外子会社で製造する一部製品に品質不良が発生し、損害の補償が生じたことによる特別損失（損害賠償損失引当金繰入額）1億37百万円を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億54百万円（前年同四半期比48.6%減）となりました。

財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、112億5百万円（前連結会計年度末は117億62百万円）となり5億56百万円減少しました。その主なものは、現金及び預金の減少（3億60百万円）、商品及び製品の減少（2億23百万円）等であります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、102億77百万円（前連結会計年度末は96億67百万円）となり6億9百万円増加しました。その主なものは、有形固定資産の増加（5億10百万円）等であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、77億41百万円（前連結会計年度末は80億61百万円）となり3億19百万円減少しました。その主なものは、支払手形及び買掛金の減少（2億46百万円）等であります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、32億1百万円（前連結会計年度末は29億6百万円）となり2億95百万円増加しました。その主なものは、長期借入金増加（3億3百万円）等です。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、105億39百万円（前連結会計年度末は104億62百万円）となり76百万円増加しました。その主なものは、その他有価証券評価差額金の増加（1億13百万円）等です。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して3億60百万円減少し、33億81百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4億6百万円（前年同四半期は3億45百万円の獲得）となりました。

これは、減価償却費4億円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は8億32百万円（前年同四半期は2億37百万円の使用）となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出6億57百万円、貸付けによる支出91百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は92百万円（前年同四半期は40百万円の使用）となりました。

これは、長期借入れによる収入5億72百万円、長期借入金の返済による支出1億86百万円、配当金の支払額1億70百万円等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億53百万円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,400,000	11,400,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,400,000	11,400,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日		11,400		1,500,500		1,194,199

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東洋水産株式会社	東京都港区港南 2 - 13 - 40	2,005	17.61
UNITED FOODS INTERNATIONAL 株式会社	東京都千代田区猿楽町 1 - 5 - 18 千代田ビル	1,393	12.23
ユタカフーズ株式会社	愛知県知多郡武豊町字川脇 34 - 1	1,000	8.78
株式会社足利銀行	栃木県宇都宮市桜 4 - 1 - 25	558	4.90
株式会社常陽銀行 (常任代理人 日本マスタートラ スト信託銀行株式会社)	茨城県水戸市南町 2 - 5 - 5 (東京都港区浜松町 2 - 11 - 3)	542	4.76
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋 2 - 5 - 2	325	2.85
魚住敏子	栃木県真岡市並木町	282	2.47
仙波糖化工業従業員持株会	栃木県真岡市並木町 2 - 1 - 10	259	2.27
理研ビタミン株式会社	東京都千代田区三崎町 2 - 9 - 18	150	1.31
芳賀通運株式会社	栃木県真岡市鬼怒ヶ丘 8 - 3	147	1.29
計		6,663	58.53

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 16,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,379,400	113,794	
単元未満株式	普通株式 4,600		
発行済株式総数	11,400,000		
総株主の議決権		113,794	

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
仙波糖化工業(株)	栃木県真岡市並木町 2丁目1番地10	16,000		16,000	0.14
計		16,000		16,000	0.14

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,757,161	3,396,897
受取手形及び売掛金	4,080,897	4,031,730
商品及び製品	2,063,538	1,839,685
仕掛品	626,406	762,378
原材料及び貯蔵品	944,749	788,792
その他	290,142	386,433
貸倒引当金	539	526
流動資産合計	11,762,356	11,205,391
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,865,830	3,998,391
機械装置及び運搬具(純額)	1,843,544	1,808,553
その他(純額)	903,158	1,316,055
有形固定資産合計	6,612,532	7,122,999
無形固定資産		
投資その他の資産	574,873	646,666
投資有価証券	1,809,174	1,955,120
繰延税金資産	519,613	455,567
その他	151,685	97,051
貸倒引当金	102	102
投資その他の資産合計	2,480,370	2,507,636
固定資産合計	9,667,776	10,277,302
資産合計	21,430,132	21,482,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,429,627	2,182,842
短期借入金	3,855,133	3,807,592
未払法人税等	105,343	125,690
賞与引当金	352,905	370,458
役員賞与引当金	21,000	-
損害賠償損失引当金	-	137,000
その他	1,297,239	1,118,119
流動負債合計	8,061,249	7,741,703
固定負債		
長期借入金	1,316,674	1,620,401
退職給付に係る負債	1,244,926	1,273,211
繰延税金負債	161,940	141,530
資産除去債務	51,725	51,775
その他	131,305	115,019
固定負債合計	2,906,571	3,201,938
負債合計	10,967,820	10,943,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,500	1,500,500
資本剰余金	1,203,109	1,203,109
利益剰余金	6,058,343	6,042,521
自己株式	5,108	5,108
株主資本合計	8,756,844	8,741,022
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	901,634	1,015,405
為替換算調整勘定	53,145	25,770
退職給付に係る調整累計額	32,911	30,658
その他の包括利益累計額合計	815,577	958,976
非支配株主持分	889,890	839,054
純資産合計	10,462,312	10,539,053
負債純資産合計	21,430,132	21,482,694

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	10,163,171	9,571,207
売上原価	7,923,806	7,475,511
売上総利益	2,239,365	2,095,695
販売費及び一般管理費	1,754,867	1,631,862
営業利益	484,497	463,833
営業外収益		
受取利息	1,823	1,643
受取配当金	16,134	16,011
その他	20,116	19,751
営業外収益合計	38,074	37,405
営業外費用		
支払利息	14,491	30,902
為替差損	15,710	73,834
その他	17,983	9,496
営業外費用合計	48,185	114,233
経常利益	474,386	387,005
特別利益		
受取保険金	-	10,400
特別利益合計	-	10,400
特別損失		
投資有価証券評価損	6,055	22,918
損害賠償損失引当金繰入額	-	137,000
特別損失合計	6,055	159,918
税金等調整前四半期純利益	468,331	237,487
法人税、住民税及び事業税	122,296	105,079
法人税等調整額	6,658	2,355
法人税等合計	128,954	102,724
四半期純利益	339,377	134,762
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	37,866	20,173
親会社株主に帰属する四半期純利益	301,510	154,936

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	339,377	134,762
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,395	113,771
為替換算調整勘定	35,955	3,578
退職給付に係る調整額	336	2,252
その他の包括利益合計	20,223	112,445
四半期包括利益	319,153	247,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298,479	274,672
非支配株主に係る四半期包括利益	20,674	27,464

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	468,331	237,487
減価償却費	461,544	400,757
貸倒引当金の増減額(は減少)	268	13
賞与引当金の増減額(は減少)	10,306	17,553
役員賞与引当金の増減額(は減少)	17,200	21,000
損害賠償損失引当金の増減額(は減少)	-	137,000
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	24,733	43,966
長期未払金の増減額(は減少)	239	-
受取利息及び受取配当金	17,957	17,654
支払利息	14,491	30,902
為替差損益(は益)	2,057	171
投資有価証券評価損益(は益)	6,055	22,918
固定資産除却損	5,412	4,086
売上債権の増減額(は増加)	394,514	50,495
たな卸資産の増減額(は増加)	111,409	229,106
その他の流動資産の増減額(は増加)	136,960	27,222
仕入債務の増減額(は減少)	507,259	235,930
その他の流動負債の増減額(は減少)	335,959	333,020
その他	21,251	15,859
小計	504,263	578,190
利息及び配当金の受取額	18,732	17,850
利息の支払額	14,491	31,017
損害賠償金の支払額	-	74,000
法人税等の支払額	162,621	84,838
営業活動によるキャッシュ・フロー	345,883	406,185
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	5,000	5,000
定期預金の払戻による収入	5,000	5,000
有形固定資産の取得による支出	1,024,440	657,162
無形固定資産の取得による支出	336,004	89,573
有形固定資産の売却による収入	571,316	-
無形固定資産の売却による収入	586,911	-
投資有価証券の取得による支出	4,092	4,163
有形固定資産の除却による支出	4,209	695
貸付けによる支出	34,897	91,380
貸付金の回収による収入	8,154	9,559
その他の支出	2,178	422
その他の収入	2,304	1,559
投資活動によるキャッシュ・フロー	237,136	832,278

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	286,611	99,445
長期借入れによる収入	50,000	572,982
長期借入金の返済による支出	183,780	186,262
リース債務の返済による支出	22,944	24,439
配当金の支払額	170,878	170,514
財務活動によるキャッシュ・フロー	40,991	92,320
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,820	26,489
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	56,935	360,263
現金及び現金同等物の期首残高	3,138,039	3,742,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,194,974	3,381,897

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りに用いた仮定は、前事業年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(追加情報)」の記載から重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2 四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2 四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料手当及び賞与	327,632千円	352,194千円
賞与引当金繰入額	111,213	116,680
退職給付費用	21,912	23,267
貸倒引当金繰入額	268	13
運賃	345,421	329,530
研究開発費	181,628	153,663

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2 四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2 四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	3,209,974千円	3,396,897千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	15,000	15,000
現金及び現金同等物	3,194,974	3,381,897

(株主資本等関係)

前第2 四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	170,758	15.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

当第2 四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	170,758	15.00	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社グループは、食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	26円49銭	13円61銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	301,510	154,936
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	301,510	154,936
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,383	11,383

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載をしておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月12日

仙波糖化工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

さいたま事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 松 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒 井 博 康 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている仙波糖化工業株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、仙波糖化工業株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠し

て実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。